

寄 生 虫 検 査

動 向

平成7年度の学校保健法の改正後、ぎょう虫卵検査の対象学年は県下一部地域を除き、小学校1～3年生までとして定着している。今年度は前年度に比べ受検学校数は53校増(4.0%)となったが、受検者数は8,475名減(2.9%)となった。ぎょう虫卵陽性者の割合は年々減少し、前年度と同様に1%を下回り、0.41%となった。同様に寄生虫(ぎょう虫)ゼロの学校の割合も全体で65.3%となり、ぎょう虫卵検査の本来の目的を達成しつつある。当協会ではぎょう虫卵検査に限らず学校保健分野の検診、検査において従来の形を踏襲するだけでなく、学校現場の要望に答え、行政、医師会等と連携を保ち、社会の変化に対応できる検査態勢を今後も進めていく。

方 法

ぎょう虫検査

ぎょう虫は他の寄生虫と産卵の仕方が違い、夜間、肛門周囲に出てきて産卵するため通常の糞便塗抹検査では検出できない。このため、当施設では肛門周囲に産卵されたぎょう虫卵検出法であるウスイ式セロハンテープによる二日連続採卵法で検査を行っている。検査を受けるにあたっては朝起きてすぐに、検査紙を肛門周囲にあてる。排便後では肛門周囲がふき取られるために検出率が極端に低下するので注意が必要である。

当協会では検出感度をあげるため1度顕微鏡検査を行ったものをもう一度再チェックして見落としを最小限にしている。

精度管理

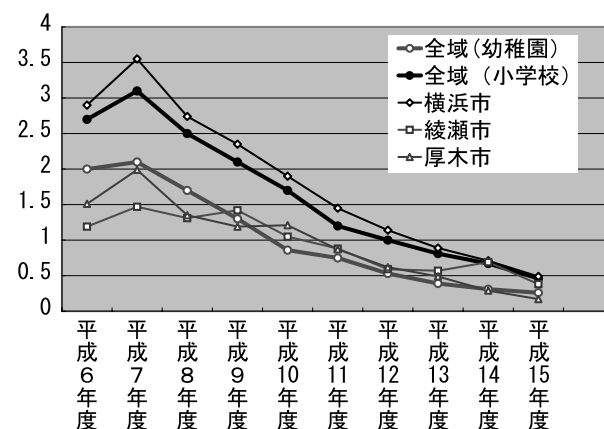
毎日の陽性率をチェックするとともに、顕微鏡検査による見落としを防ぐため一度検査したものを再検査し見落としを防いでいる。

結 果

蛭虫陽性率の年次推移を図に示した。幼稚園児の陽性率を(○)で、当施設で実施している全小学生的陽性率を(●)で示した。また年1回法で検査を

実施してきた主要都市横浜(◇)、及び平成7年度まで年2回法を実施してきた綾瀬市(□)、厚木市(△)の陽性率年次推移(小学校)をそれぞれ示した。7年度に陽性率が大きく上昇しているのは検査の対象学年が小学校の全学年から陽性率の高い小学3年生までと法改正されたためである。陽性率の推移をみると、平成7年度からのぎょう虫陽性率は顕著に減少してきた。小学生を見ると、横浜市では平成12年度の陽性率が1.14%、15年度は0.49%、この間の減少率は0.65%で毎年ほぼ0.2%の減少傾向が続いている。他方、早くから年2回法を実施してきた綾瀬市では12年度の0.59%から15年度は0.38%で4年間で0.21%の減少にとどまった。同じく年2回法を実施していた厚木市も同じような傾向を示し、12年度0.62%から15年度は0.31%で0.31%減少した。小学生全体で見たとき、平成7年度の陽性率3.1%から12年度の1.0%まで一気に減少したが15年度にかけては減少傾向は緩慢になってきた。一方、幼稚園の陽性率は12年度0.53%、13年度0.39%、14年度0.31%、そして15年度は0.26%であった。小学校ぎょう虫陽性率のここ数年の推移を見ると、横浜など大都市部と県域の地方都市部との差が無くなってきた。今後、ぎょう虫陽性率の減少傾向がこのまま続いて、ぎょう虫症が終息に向かうのかどうか、あるいは減少傾向が緩慢になってある一定のところで減少傾向がとまるのか、今後のぎょう虫卵陽性率の動向が注目される。

図A りょう虫陽性率の推移



関係の集計表は143頁に掲載